

老後破たんする6つのパターン

老後破たとひとくちにいても、色々なパターンがあります。ここでは、それぞれのパターンを知り自分がどんなパターンに陥ってしまいがちか、考えてみましょう。

パターンを知って老後破たんを避ける

下の表に、6つのパターンをあげました。どのパターンの破たんに陥りそうか、原因を突き止めていくことができれば、これから身につける知識で対応し、破たんを回避することができます。

老後破たんのパターン

	内容
浪費破たん	収入に見合わない生活を行うことで、赤字家計となり、貯蓄を取り崩し破たんするケース
イベント破たん	住宅（リフォーム）や自動車などの生活費以外の大きな買い物や、旅行やレジャーなどのイベント費として数万円単位の支出をどんどん行うことで貯蓄を取り崩し、破たんするケース
病気・介護破たん	自分自身や配偶者の医療、介護費用や親の介護費用の負担で仕事ができなくなり収入が途絶えたり、貯蓄を取り崩し、破たんするケース
子ども・孫破たん	子どもへの結婚費用、教育資金、住宅取得援助を過剰に行うことで自身の老後資金まで取り崩し、破たんするケース
トラブル破たん	振り込め詐欺や悪徳詐欺、金融商品に騙されてしまい、老後資金を一気に失ってしまい、破たんするケース
低所得破たん	収入が少なく、生活のため生活保護を受けるケース

年金生活に入れば、現役時代の半分以下の収入で生活をしなければならなくなります。にもかかわらず、支出のペースが変わらないと、どんどん貯蓄が切り崩されていきます。収入に見合わないペースで支出をしてしまうと、「浪費破たん」になります。

健康寿命は70代半ばまでであるので、退職後は時間に余裕があります。車を買う、旅行をするなど、大きなイベントにお金を使いすぎると「イベント破たん」につながります。

病気・介護破たんはその名の通りで、自分の病気や親の介護、自分の介護にお金がかかりすぎてしまうケースです。子どもたちを心配して老後資金を全部使ってしまう「子ども・孫破たん」、詐欺や悪徳商法に引っかかる「トラブル破たん」も増えています。また、そもそも収入が少ない方は、「低所得破たん」に陥りやすい状況にあるといえます。

老後破たんを避けるには、これらの6つの破たんパターンを避けるように気をつけなければいけません。